コロナ下で生き抜くために、一緒に声をあげましょう！

区内基幹4病院への「減収補填」に反対

区議会決算特別委員会（10月1日）

4月の区議会臨時会で「区内4病院への23億円の区費投入」に反対しました。「減収補填」という名目での病院経営への区費投入は、医療従事者の待遇向上には直結しないことが予想されたからです。

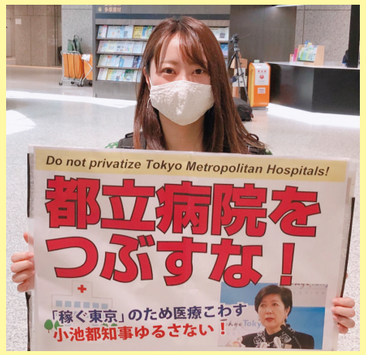
コロナ感染対策が中長期的に求められる中、一度限りの区費投入が地域医療を本当に守り持続させることにはつながらないからです。杉並区は病院経営者だけでなく、何より現場の医療従事者の声を聞くべきなのです。それなしに「地域医療を守る」など空語です。

都立病院の独立行政法人化に反対

独立行政法人化とは民営化のことであり、カネもうけを優先する病院につくりかえることです。カネもうけを一切に優先させ、“カネにならない”領域を切り捨ててきたことがコロナ禍での医療崩壊をもたらしているのではないでしょうか。

民営化・外注化・非正規職化および人員削減で、「コロナ危機」以前にすでに社会的な医療体制は崩壊しており、政府・都政・区政はそれをコロナ情勢下でさらに推し進めようとしています。

医療・介護・福祉・公衆衛生を中心に、労働者や区民の命と生活に関わるすべてを行政が公的に保障すべきです。



「都立病院をつぶすな」署名の都知事への提出行動に参加しました（8月6日）

阿佐ヶ谷再開発の白紙撤回を求めて

コロナ禍にもかかわらず、多くの住民の反対の声を無視して事業計画を粛々と進める区の姿勢は大問題です。浸水や土壌汚染の可能性のある病院跡地に杉一小学校を移転すること、貴重な屋敷林が破壊されてしまうことなど、地元住民の危惧は何ら解消されていません。

病院経営側は移転費用捻出のために職員への賃下げや退職金減額を進める一方、田中区長には巨額の政治献金を送っています。「子どもたちの教育環境の向上」、「防災性の向上」、「みどりの保全」、全部詭弁です。再開発の本質を覆い隠して住民を黙らせるためのウソです。あくまで白紙撤回を貫いていきます。

第一定例会一般質問（2月14日）

働く者が人間らしく生きられる社会を

ワーカーズアクションin高円寺で多くの青年とともに（10月11日）

4月から始まった「会計年度任用職員制度」で、杉並区は2560人がその対象となりました。区職員の非正規職率は4割にものぼります。田中区政が正規職を減らし、非正規職を増やしてきた結果です。

コロナ禍において、労働のあり方そのものが問われています。エッセンシャルワーカーなどの現場で求められていることは、労働条件と職場環境の改善、賃上げと正規職の増員、施設・人員体制の拡充です。

「働く人たちが人間らしく生きられる社会」こそ、子どもたちや高齢者、障がい者、すべての人が豊かに人間らしく生きられる社会です。

学費無償化要求行動に参加。高い学費に苦しめられる一方で、コロナ禍でバイトを切られる学生の怒りは頂点にあります（5月　文部科学省前）

医療労働者とともに「政府は医療現場の声を聞け」と首相官邸に向かって抗議行動を行いました（5月）

すべての原発いますぐなくそう!ナガサキ原爆の日に反戦反核を訴えて渋谷でデモ行進（8月）

「コロナ解雇許すな」「スガやめろ」をかかげて行われた全国労働者集会。青年労働者が集会・デモをけん引しました（11月　日比谷）

新春 区政報告会

と　き：2月11日（木・休日）午後2時より

ところ：荻窪タウンセブン8階（タウンセブンホール）
荻窪駅北口すぐ

杉並区議として初めての区政報告会です。コロナ禍の大変な状況での開催となりますが、多くの皆さんのご参加をお待ちしています。なお、直接会場に来られない方は、ビデオメッセージでのご参加もよろしくお願いします。詳細は下記の都政を革新する会・事務局までお問い合わせください。

- ほらぐち区議からの報告と決意
- 2020年を振り返って―DVD上映
- 区民の皆さん、各方面の方々から
- ビデオメッセージ

参加費　500円

ほらぐちともこ（洞口朋子） 杉並区議会議員
会派：都政を革新する会
都市環境委員会／文化芸術・スポーツに関する特別委員会

〈プロフィール〉
1988年宮城県仙台市生まれ。2003年イラク戦争時、中学生で反戦デモに参加。2008年法政大学に入学。全学連として反戦運動や学生自治を復権させる活動を行い、2010年に無期停学処分。処分後も改憲・戦争・貧困に反対して奮闘。2019年4月杉並区議会議員選挙で3275票を獲得、18位で初当選。

〔阿佐ヶ谷事務所〕〒166-0015 杉並区成田東5-39-11　ビジネスハイツ阿佐ヶ谷603
TEL & FAX03-3329-8813（都政を革新する会）
メール info@horaguchitomoko.jp　ホームページ https://horaguchitomoko.jp

毎日発信！
一緒に社会を
変えよう。

@HoraguchiTomoko

杉並区議会議員　洞口 朋子　都政を革新する会

ほらぐち ともこ 通信
区議会レポート

2021年
1月1日発行
第8号
（新年特別号）

若者や女性が声をあげられる社会をめざしてがんばります！

あけましておめでとうございます。昨年は多くのご支援をありがとうございました。2020年は「新型コロナ」で世界が一変すると同時に、社会のあり方が大きく問われた一年でした。人間が人間らしく生きられる社会を目指して今年もみなさんとともに声をあげます。

菅政権も小池都知事も「コロナ対策は自己責任」と言わんばかりの対応で、人々の生命や生活を守ろうとはしません。世界的な感染状況を考えても、東京オリンピックは中止すべきです。「人・モノ・カネ」のすべてを医療支援に集中させるべきです。阿佐ヶ谷再開発もしかり、ではないでしょうか。

しかし、いま現実に起きていることは、医療従事者をはじめ多くの労働者の賃下げやボーナス削減です。田中区長独自のコロナ対策も、結局は「病院経営の救済」です。

今年も、コロナ禍でいかにして民衆の命と生活を守るのかが問われます。子どもから高齢者まですべての人々が人間らしく生きられる社会をつくるためには、世の中を動かしている労働者が大切にされる社会でなければなりません。コロナ解雇や貧困、過労死…。この現実を変えたいという思いでこの2年近く、区議会活動を行ってきました。その中で様々な壁にぶつかり、七転八倒しながら、議会での質問や意見を述べてきました。その中でつかんだ一番大切なことは、区民のみなさんに常に寄り添い、真剣に学ぶことこそが、私の議会活動の軸だということです。ぜひ、ご意見をお寄せ下さい。

今年もみなさんとともに行動していきます。若者や女性が声をあげられる社会を目指してがんばります！　どうぞよろしくお願いします！

空港建設に反対する成田市三里塚の農民の
支援のため援農にかけつけました（10月）

ほらぐち ともこ